



じしゅう とうこうさん
時宗 東岡山

福田寺だより

【ホームページもご覧ください!】
<https://kyoto-fukudenji.com/>



～今月のおことば～

有^{しょうじ}心は生死の道、無^{ねはん}心は涅槃の城なり 一遍上人

〔解釈〕 相対差別の心をもてば迷いの道があり、その心を無くせば安らかな境地へと入ることができる

3つの旗印

余寒厳しい折ですが、いかがお過ごしでしょうか。全世界で新型コロナウイルスが猛威を振るっております。一刻も早い事態の収束を願うばかりです。

さて、2月15日は、仏教三大行事の一つである涅槃会の日です。お釈迦様が亡くなり、完全な涅槃へ入られたことを偲びます。涅槃とはさとり^{さんぼういん}の境地、苦しみが消滅した状態を指します。よくタイなどで見られるお釈迦様が横になっている像が涅槃のお姿で、頭を北に顔は西を向き、右脇を下にしておられます(頭北西面右脇臥)。この涅槃は涅槃寂靜ともいい、仏教の基本教理である「三法印」の一つに挙げられます。少し紹介したいと思います。

【三法印】とは… ①諸行無常 ②諸法無我 ③涅槃寂靜^{じやくじょう}

- ① 「諸行無常」は最も基本的な真理といえます。すべての物事は永遠に存在するはず、常に変化することを意味します。人の命も無常であり、はかないものです。“無常を觀ずるは、菩提心のはじめなり”といい、自分の死を見つめたとき、本当の幸せ、さとり^{さんぼういん}の道を目指すきっかけが生まれるのです。
- ② 「諸法無我」はあらゆるものは因縁によって成り立っており、独立した存在、実体は無いという意味です。自分の体や心など、“私のもの”と思っている存在も、実は「無我」=「私のものではない」という教えです。
- ③ 「涅槃寂靜」とは涅槃が安らかな寂靜の境地であるということの意味します。あらゆる煩惱や執着から離れることができれば涅槃に入ることができ、仏教理想の境地とも言えます。

この3つに「一切皆苦」を加え、四法印と呼ぶこともあります。印とは旗印のことですから、三法印は仏教が掲げる基本的教義の旗印ということになります。大変大事なものですから常に心に留めおきたいものです。

合掌

～念仏行脚～

先月24日は恒例の「法然上人追慕念仏行脚」に参加しました。夕刻に太秦西光寺を出発し、2か寺で勤行したのち、粟生光明寺(西山浄土宗総本山)にて追慕法要を行いました。5教団の僧侶が集まり、一般参加者を含め約160名が約16キロ、5時間半の道のりを歩きました。実は福田寺のお檀家さんもお一人参加され、無事満行されました。この道のりは、他教徒からの迫害が強まる中、法然上人のご遺骨を、お弟子方が光明寺まで運んだことに由来します。一心に念仏を称え、行脚する姿は、法然上人への報恩感謝そのものなのです。



フェイスブックでもお知らせを配信します。ぜひ「いいね!」してください♪